

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業  
 教員のための効果的な体験活動のすすめ方  
 「学級経営に生かす体験活動」研修会  
 平成26年8月4日（月）

### 1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

体験活動の意義について理解するとともに、学級での仲間づくりに体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

### 2. 事業の概要

(1) 日程

平成26年8月4日（月）

(2) 募集人員

40名（岡山県内の小学校，中学校，高等学校，特別支援学校教諭）

(3) 参加者

12名（10年研教員 小学校6名，中学校1名，高等学校3名，特別支援学校2名）

(4) 講師 国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

(5) 企画・運営のポイント

- 前年度の反省を踏まえ、実施時期を夏季休業中である8月にした。教職経験10年研修者を主な対象者として、10年研以外の教員にも本研修会に参加できるように教育センターの研修一覧に掲載した。
- 吉備の森冒険教育活動を用いて体験活動における指導法や学習法また、仲間づくりの方法について体験的に学べる構成にした。

### 3. 活動の内容等

(1) 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	受付	開講式・体験活動①	「体験活動の意義について」講義	昼食	体験活動②	休憩	体験活動③	閉講式	

(2) 活動の状況

- 学級経営に生かす体験活動①（1時間）
  - ・体験活動プログラムの導入を習得するためのアイスブレイクを中心とした実習。

- 体験活動の意義について（1時間）
  - ・子どもの状況を踏まえ体験活動の必要性と教育効果に関する講義。
- 学級経営に生かす体験活動②（2時間）
  - ・子ども同士、教師と子どもの関係を円滑にするための学校でも可能な課題解決ゲームを中心とした実習。
- 学級経営に生かす体験活動③（1時間45分）
  - ・国立吉備青少年自然の家の施設を利用した課題解決ゲームの実習。
- ふりかえり
  - ・これまでの教育実践と研修での学びをふりかえりながらまとめをする。

〈研修の様子〉



体験活動①



体験活動①



体験活動①



体験活動②



体験活動③



集合写真

## 4. 成果・課題

### (1) 成果

- ・ 昨年の反省をもとに開催時期を夏季休業中の平日に開催することで、12名の参加があった。
- ・ 内容を学級や部活動で活用できる仲間づくり体験活動を取り入れる方法を活動ごとに意図落としや理論的な補足をして参加者が実践できるようにした。
- ・ 体験活動の構成は、体験を通じて集団がチームへと成長していく過程が体感できる内容とし、参加者が課題解決のために真剣に討議や試行錯誤を繰り返す必要のある内容にした。その結果参加者の距離が縮まり、良い雰囲気の中研修を終えることができた。今までの経験を振り返り、具体的な目標を紡ぎ出すこともでき、満足度が高い研修となった。

### (2) 参加者の声

○ 事業全体に対する満足度・・・100%

{参加者自由記述}

「最高でした。体で学びながら、心が通じ合っていくことに心地よさを感じました。」

「1日という短い研修でしたが、スムーズな流れで気がついたら先生方の流れにのって、ねらいまで導かれました。本当に参考になりました。」

「学級づくりに生かせるスキルだけでなく、実際に体験することで、指導者として持つべき思いを考えることができた。」

「大切なことは言わない、考えさせる、振り返らせる、ということが学べた。」

「体験活動ってこんなによいものなのだなあと気づきました。1つの課題達成のために、自然と話し合い、声を掛け合い、喜び合いました。教師から…というのではなく、子供達自身のふれ合い、成長しようとする力をもっと信じようと思いました。私自身は10年経ちますが、まだまだ成長するぞと心に誓った研修でした。最後の詩が心に残り、これからの心の支えです。ありがとうございました。」

### (3) 今後の課題等

- ・ 参加対象者と募集時期が限られたため、岡山県総合教育センターの担当者と研修時期についての打合せを行った結果、参加者数を伸ばす結果となった。今回も研修内容には十分に満足のいく評価を頂いているので、今後も参加者が増えるよう募集に工夫を凝らしていく必要がある。
- ・ 参加者が研修後も継続して学べるように他の研修と連携していきたい。

担当：主任企画指導専門職 宇江 賢